

## 9月27日（水）

おはようございます。

清風は「徳健財」ということを言いますが、そのなかで一番難しいのは「徳」です。これが身についてこない人間関係はなかなか上手くいかないものです。例えば、あの人がするのであれば、手伝わせてもらおうかというのと、あの人がするのだったら、邪魔しようかというのでは全然ちがうわけですから。徳を積むためには、利他の気持ちで人の世話をしたりすることはとても大事ですが、それと同時に自分をきっちり磨いていくことがとても大事なことです。

私の知り合いに、電通の社員の人があります。そこで仕事をばりばりしているときは、得意先の人とかプライベートでもたくさんの方が近寄ってきて、パーティとかもたくさんあり、彼が主催しているいろいろな会にも多くの方が参加して付き合ってくれていた。しかし電通をやめたら、だれも来なくなりました。彼はすごく落ち込んでいました。これは、その人の徳で人が近寄ってきていたわけではなく、要するに仕事で来ていたわけですから。つまり、「力」と「徳」というのでは、一見似ているのでわれわれは勘違いをしてしまうことがある。「徳」というものは自分で自分を磨いていくことでしか身についてこないのです。

ダライマラ法王が、ときに「弥勒のお守り」とおっしゃいます。弥勒というのはサンスクリットで「マイトレイヤー」といい、その意味は「慈悲」です。ですから「弥勒のお守り」とは「慈悲のお守り」ということです。つまり「弥勒のお守り」の本当の意味は、弥勒菩薩が私たちを守ってくれるというのではなくて、自分のなかに慈悲心がきっちりできたら、お守りはなくてもそれが守ってくれるという話であると法王様はおっしゃったのです。そういう意味でも、自分をきっちり磨いていくこと、自分の人格を高めていくことはとてもとても大事なことです。

しかし、これは簡単そうにみえて実は難しい。なぜかと言うと、人は自分に対しての採点は絶対に甘いからです。人はしんどいことがあれば、何かしらのいいわけをして、自分にとって都合のいいように正当化しようとしてしまう。人や友達や親に対してもそうするし、先生に対してもそうしてしまふ。そのなかで自分に辛い採点をして、ここを直していかないといけないときっちりと思えるかどうか。そういうふうには思えないと、自分の人格というものはなかなか向上していかない。だから人格の向上というのは、かなり意識しないとできないものです。人がいろいろと自分について評価するけれども、しかし、自分がきっちり自分を保って自分を磨いていく評価

をし続けていれば、多少は変な評価を人から受けたりしても、必ず揺り戻しがきて正しいところへ戻ってくるのです。

そういうふうになるためには、まず自分をきっちり磨くこと、そして、自分のことにばかり目を向けるのではなく、人に対して親切にするという利他の精神を持つことです。そのとき自分に向けている視線は、自分をどうやって成長させていくかということでもって見るのです。これもまたなかなか難しいことです。なぜかというと、人は自分のいいところだけ見て悪いところは見たくないものからです。それを、自分の悪いところ、至らないところも含めて、どういうふうに改善していけば、もっと成長していけるだろうかと考えることができるかどうかが大変なところなのです。また同時に他人に対する視線は親切心を持ってね。

こういう気持ちを自分のなかに持てるかどうか、「徳健財」の「徳」を育てていく方法です。徳がいたら、人は必ず応援してくれるものです。

昨日、ある卒業生が体育祭にきてくれていましたが、職場の上司のことを心配していました。その上司はとてもいい人なのだけれどときどき頭に血がのぼって「かっ」となることがあるらしく、それが重要な会議のときにあって評判が下がってしまったという。歳を重ね、社会経験の豊富な人でもそうなのだから、自分の人柄を変えていくというのはそう簡単ではない。しかし自分の人格を高めて徳を積んでいけば、人の評価は自然と修正されるものです。遠道に見えて徳を積む一番の近道は、自分のところをしっかりと磨くこと、他の人への親切心をきちんと持って、自分の至らないところにきちんと向き合うことです。諸君も徳が積まれていくように意識して心がけてもらいたいと思います。

今朝の話はこれで終わります。

学校長